

令和5年度 第3回京都市上下水道事業経営審議委員会議事録

日 時 令和6年3月26日（火） 午前9時30分～午前11時30分

場 所 京都市上下水道局総合庁舎 4階 会議室4-1・2

出席者（五十音順、敬称略）

1 委員

浦上 拓也	近畿大学経営学部教授
小林 明子	市民公募委員
寺内 成子	一般社団法人京都市地域女性連合会理事
中田 英里	公認会計士
平山 修久	名古屋大学准教授（減災連携研究センター）
藤原 拓	京都大学大学院地球環境学堂教授
山舗 恵子	株式会社京都リビング新聞社取締役編集部長

2 京都市

京都市公営企業管理者上下水道局長、次長、技術長

総務部長、総務部担当部長、総務部お客さまサービス推進室長、経営戦略室長、

技術監理室長、水道部長、下水道部長

事務局（経営戦略室）

次 第

1 開 会

- (1) 出席者確認
- (2) 進行の確認、会議の公開について

2 議題

- (1) 中期経営プランに基づく令和6年度計画の策定について
- (2) 後期プランにおける経営評価冊子の構成について

3 報告

- (1) 令和6年能登半島地震における上下水道局の支援活動について
- (2) 令和6年度一般公開事業について
- (3) 「京都市水道事業・公共下水道事業 環境報告書2023」について

4 今後の予定

5 閉 会

京都市あいさつ

1 開 会

(1) 出席者確認

(2) 進行の確認、会議の公開について

浦上委員長： 本日の議事進行等について事務局から説明いただきたい。

事 務 局： 議事の説明、資料の確認

浦上委員長： 本委員会の会議は原則として公開とし、非公開情報はないため、公開で行いたいと考えるが、いかがか。

各 委 員： 異議なし。

浦上委員長： 議事録は後日公開することとし、撮影は次の議事に入るまでの間とする。

議事録は2名の署名が必要であるので、今回は、藤原委員と山舗委員にお願いする。後日事務局から連絡があるので、よろしくお願いする。

2 議題

(1) 中期経営プランに基づく令和6年度計画の策定について

浦上委員長： 議題(1)「中期経営プランに基づく令和6年度計画の策定について」について事務局から説明いただく。

事 務 局： 資料の説明（資料1－1～1－3）

浦上委員長： ただ今事務局から議題(1)「中期経営プランに基づく令和6年度計画の策定について」について説明があったが、質問・意見等はいかがか。

寺 内 委 員： 資料1－3の4ページの下段の文字が見にくいが印刷の関係か。

京 都 市： 4ページの下段は5ページ以降の見方を示すために掲載しているので記載内容を見ていただくことを想定していないが、ご指摘のとおり見にくい箇所があるので、工夫させていただきたい。

小林委員： 1月の能登半島地震を受けて京都市のマンホールトイレを調べてみたが、上下水道局のホームページには掲載されていなかったと思う。地域の自主防災会はどこにマンホールトイレがあるのか知っておられるのかもしれないが、コロナを経てそういう組織も薄れてきているので、市民が見られるところに掲載していただければと思う。

京 都 市： 京都市全体の防災計画については、行財政局防災危機管理室が所管しており、公表する内容については今後調整を進めていきたい。自主防災会の皆さまとは設置場所の選定や訓練などでも連携を取らせていただいている。

山 舗 委 員： 仮設給水槽やマンホールトイレを増設することについては非常に良いことだと思うが、その分予算は増額しているのか。

京 都 市： 今回マンホールトイレを増設することについては、建設事業費の中で優先順位を工夫して対応しており、総額が増えたわけではない。

小 林 委 員： 資料1－3の9ページの防災・減災対策として鳥羽第3導水きよのトンネル写真を掲載しているが、堀川通で行っているこの工事が大型下水道工事ということは市民はあまり知らないと思う。もっと市民に対して大きなパネルを設置するなどアピールしてみてはどうか。こういった必要な浸水対策工事にお金がかかるのであれば、料金が上がっても仕方がないなと思うところもある。

京 都 市： 堀川通では車線規制を行っているが、できる限り市民の方にご迷惑が掛からないよう、シールドの発進拠点を鳥羽水環境保全センター内に設けるなど工夫をしてきた。市民の方に向けた事業PRについては、いただいたご意見を踏まえ、より一層市民の皆様方にご理解いただける方法を引き続き検討ていきたい。

浦上委員長： 鳥羽第3導水きよの工事費はすべて料金でまかなっているのか。

京 都 市： 予算額の構成については、基本的には建設事業費として企業債を発行して進めしており、また一般会計からの雨水負担金も入っているため、すべてを料金でまかなっているわけではない。

平山副委員長： 1点目は、例えば鳥羽第3導水きよでは見学会を実施するのもいいが、管の中が満水にはならないと思うので、クラウドファンディングやふるさと納税などを活用して、管の中に市民がパネルを張れるようにし、自分たちも京都の上下水を支えているという認識を持つてもらえるように、事業と広報をうまく繋げていくような取組があつてもいいのではないかと思う。

2点目は、被災時には上下水道局職員がすべて対応できるわけではないため、市民の皆さままで実施していただくことが実際には必要であると思うが、あまりそういった部分が発信できていないように思う。仮設給水槽を市民に設置してもらうのか等、考え方を教えていただきたい。

3点目は、資料1－2の水に関する意識調査では飲料水の備蓄率は55.6%と下がっているが、これは災害の発生に左右される数値だと思う。飲料水の備蓄率の目標設定については、仮設給水槽を何基設置できることから、市民に対し

てはどのぐらい備蓄してもらえばいい等、どのような姿を目指していくのかを意識調査を起点として検討していくべきであると考える。

4点目は、資料1－1の4ページに建設改良のための積立金（利益）を令和5年度はプランよりも上回って確保できる見込みとあるが、その理由については電気料金単価が想定を下回る水準で推移したためとしか書かれていないが、経営努力をしっかりととしていることも明記すべきである。

京 都 市： 鳥羽第3導水きょについては、市民の皆さんにも浸水対策について理解を深めていただくためにも見学会の開催等を検討していきたい。

被災時はおっしゃるとおり上下水道局職員がすべて対応できるわけではないため、例えばマンホールトイレの設置は避難所運営の方々を中心に実施することとなっており、区役所や当局では市民の皆さんと訓練を進めているところである。仮設給水槽や仮設給水栓の取扱いについては、市民の皆さんが直接対応するのは難しく、当局職員や他都市からの応援職員により対応していくことになるが、どのような取組を実施しているかについては市民の方々にアピールしていきたい。

飲料水の備蓄率については、大阪北部地震の直後は備蓄率が上がったが、その後、減少傾向にあり、マスメディアの報道に左右される部分がある。今回の能登半島地震を受けて疏水物語の販売数も増加しており、これまでから市民の皆さんに対してリーフレット等で防災情報をお知らせしているが、来年度はさらに充実を図っていきたい。

令和5年度決算見込の建設改良のための積立金（利益）については、電力料金単価が予算よりも低くなったこともあるが、中期経営プランに基づき人件費・物件費の抑制等の経営努力をしたうえで予算から状況が好転したことによる内容となっている。引き続き経営努力を実施していることをアピールしていきたい。

藤原 委員： 資料1－3の令和6年度計画の取組の中で脱炭素に関する取組については、どこに記載されているのか。

京 都 市： 12ページの視点②一方針②一取組②「創エネルギー・省エネルギーによる脱炭素社会の実現への貢献」として、脱炭素に関する当局の取組を紹介している。

中田 委員： 資料1－3の令和6年度計画の14ページ上段の主要事業として、本市が「脱炭素先行地域」に選定されたことを受け、元南部配水管理課用地の売却につながったとあるが、どういうことなのか。

京 都 市： これは主に環境政策局で進めている取組の説明であり、本市が国から「脱炭

素先行地域」に選定されたことを受け、伏見工業高校の跡地とそこに隣接する当局の南部配水管理課用地を一体として ZEH 住宅の街を創出する事業計画に基づき、売却するということである。

中田委員： 説明していただけだと理解できるが、文章だけでは勘違いするような内容となっているので、書きぶりを工夫していただきたい。

山舗委員： 資料 1－2 の水に関する意識調査は調査手法が WEB に変更されたとのことであるが、昨年までより若年層が増え回答者の年齢層が住民基本台帳と似通ったことは良いことであると思う。回答者層が変わったことで、どのような変化があったのか教えていただきたい。

京都市： 今回の調査から、WEB モニターを活用している。大きな傾向としては変化がないが、所感・感想を問う設問については、「どちらとも言えない」が増加しているところであり、引き続き調査を継続する中で検証していきたい。

寺内委員： スマホアプリは非常に良いと思う。どれくらいの方が登録され、ペーパーレスが進むと見込んでいるのか。また、スマートメーターも設置すると情報取得や検針も簡単になると良いと思うが、現状はいかがか。

京都市： スマホアプリは令和 6 年度の後半にリリースする予定であり、1 年間で 25,000 人程度の登録を見込んでおり、ペーパーレス化も促進していくことができると考えている。スマートメーターは従来にものに比べて 10 倍程度の費用がかかる状況であり、費用対効果も踏まえて検討していきたい。

中田委員： 意識調査については、郵送から WEB に切り替えたことやその変化を強調した方が良いと思う。その方が調査結果の全体像の理解も進むことになると思う。WEB に切り替えたことで、集計などの事務の効率化を図ることができたと思うが、それらを公表する予定があるのか。

京都市： 調査手法の変更についての少し説明が不足しているところもあったかと思う。また、効率化を図れた効果については今年度の決算の際に触れることを検討したい。

(2) 後期プランにおける経営評価冊子の構成について

浦上委員長： 議題(2)「後期プランにおける経営評価冊子の構成について」について事務局から説明いただく。

事務局： 資料の説明（資料 2－1、2－2）

浦上委員長： ただ今事務局から議題(2)「後期プランにおける経営評価冊子の構成について」について説明があったが、全体的に見やすくなつたと感じる。見開きページで見やすくなるよう配慮されていると感じるが、紙の冊子ではなく、ホームページに掲載する場合はどのように対応されるのか。

京 都 市： ホームページ上でも冊子と同様に見開いた状態で見ていただけるよう、掲載するデータを加工する。

3 報告

(1) 令和6年能登半島地震における上下水道局の支援活動について

浦上委員長： ただ今事務局から、資料3を用いて説明があったが、質問・意見等はいかがか。

平山副委員長： 支援活動を通じて職員の方が様々なことを経験されていると思うので、それを京都市の防災対策・施策に活かせるような仕組みを作っていただきたい。また4月から水道行政が国交省に移管されるが、京都市は以前から上下水道局として事業を行っていることから、是非「上下一体」の取組を経営の中でも活かしてもらいたい。

被災地の話でいうと、輪島市は2週間ほど前から応急給水の場所をGoogleMapで公開しており、そういった市民の方も一般的に使用しているようなアプリの活用も考える等、今回派遣された能登町以外の被災された事業体の対応や取組も幅広く情報収集し、今後の参考にしていただきたい。

京 都 市： 被災地での支援活動を経験した職員の声をどのように拾って広げていくのかは課題であると考えている。他都市との連携の重要性も再認識したことから、水道の応援協定を締結している名古屋市と北九州市との訓練も能登半島地震の経験も踏まえた訓練メニューを検討し実施していきたい。また、GoogleMapについても利便性を我々も認識しているところであり、これらについても検討を進めていきたい。

京都市として「上下一体」となった取組について、平成16年度に上下水道局として統合する前から技術職の人事交流など、これまでから積極的に実施してきたところである。経営ビジョンや中期経営プランの策定のほか、令和4年度からスタートした管路の事業量・事業費の平準化に向けた施設マネジメントプロジェクトチームでも、「上下一体」で実施しているところであり、今後も引き続き「上下一体」の取組を進めていきたい。

平山副委員長： 今回の震災では、支援者が宿泊することが大変だったかと思うので、例えば名古屋市や北九州市の職員の方にもこの総合庁舎に宿泊してもらうなど、あら

ゆる場面を想定した対応も含めて検討いただきたい。

寺内委員： 女性会の広報誌にも今回の上下水道局の支援活動を掲載させていただいている。

藤原委員： 平山副委員長と同じく、単に支援するだけではなくて、それを京都市の防災対策に生かしていくのが非常に重要だと思ったので、この経験を踏まえて進めただけたらと思う。

浦上委員長： 市民の皆さまが水道・下水道の情報をしっかりと得られ、たらいまわしにならないように市民目線で工夫していただきたい。熊本地震の際も井戸水の飲用についての問い合わせがあり、右往左往したと聞いた。現在は一元的に情報管理された取組を進めておられ、今回の支援活動の経験についてもしっかりと活かせるようにしていただきたい。

(2) 令和6年度一般公開事業について

浦上委員長： ただ今事務局から、資料4を用いて説明があったが、質問・意見等はいかがか。

小林委員： 「鳥羽の藤」と「蹴上のつつじ」の一般公開が再開することは非常にうれしい。これまで蹴上浄水場は毎年行かせてもらっていたが、少しマンネリ化しているところもあったので、ブースの数は少なくともいいと思うので、ブース内容を変更することも検討してもらいたい。また蹴上浄水場の立地上、インクラインや疏水記念館に誘導するようなルートを考え、琵琶湖疏水全体のPRにしても良いと思う。一般公開は経費も結構掛かっていると思うので、コンパクトにしていくことも必要であると思う。

京都市： 5年ぶりに一般公開を開催させていただくことになり、取組内容は取捨選択をしっかりとしながら考えていきたい。元々は2500万円程度の経費がかかっていたが、今回は1600万円程度に経費削減して実施し、協賛金やふるさと納税も活用することで、公費負担は1000万程度となる。ご提案いただいたルートについても検討しており、スタンプラリー等も予定しているところである。また、能登半島地震も踏まえて防災関係についても充実させていきたいと考えている。

寺内委員： 一般公開の団体の申込等はないのか。参加された方に説明等があればよいと思うが、いかがか。

京都市： 団体受付はしていないが、今後、より多くの人に来ていただけるように、対応について検討していきたい。

浦上委員長： 上下水道を持続可能なものとさせるために、発想を変えて新しい取組をやつていかないといけない。今回ふるさと納税を活用した取組の紹介もあったが、もっと新しい上下水道の形というものをどんどん考えて、上下水道を持続可能なものとさせるような京都市独自の他の地域にはない取組を実施していただきたい。

(3) 「京都市水道事業・公共下水道事業 環境報告書2023」について

浦上委員長： ただ今事務局から、資料5を用いて説明があったが、質問・意見等はいかがか。

山舗委員： 環境報告書については、市民が閲覧するにはホームページのほか、どのように公表されるのか。環境を考えて、色々取り組んでおられることをもっと市民に伝えることも大切と思う。

京都市： ホームページで公表するとともに、発行についてお知らせするチラシを作成し、区役所や市役所等に配架している。

山舗委員： 全部の情報を見せようすると大変だと思うので、少しずつでもいいので重要なポイントを各戸検針で配っておられるリーフレット等に掲載することなども検討されてはどうか。

京都市： 来年度以降、リーフレットでは紙面が限られているので、そこからホームページへつなげていくように工夫するなど内容について充実を図ってまいりたい。

浦上委員長： 環境報告書において、CO₂の表記が「CO₂」と「CO2」が混在しているので、統一いただきたい。

4 今後の予定

浦上委員長： 次回の予定について、事務局から説明いただく。

事務局： 次回の令和6年度第1回の委員会日程については、調整のうえ、後日連絡させていただくので、よろしくお願ひする。

5 閉会

事務局： 長時間にわたり御審議いただき、御礼申し上げる。